

支え合うきよせ委員会（清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体）

第8回 支え合いバックアップ部会（B部会）記録

日時	平成29年12月18日(月) 13時15分～14時30分	場所	児童センター会議室
出席者	柳原部会長、近藤委員、内野委員、羽田委員、村田委員 生活支援コーディネーター：鍵和田、森、鈴木、原田 事務局：上垣、森田                      オブザーバー：清雅包括実習生1名		

1 支え合い体験会について

(1) 今後の進め方の確認

- 前回の内容を踏まえ、今後は生活支援コーディネーターが中心となり体験会を開催することを確認。委員は日程を確認後、参加調整とする。
- 旭が丘団地自治会、チーム竹丘、白梅自治会へ、体験会実施の呼びかけを生活支援コーディネーターが行う。また意見交換会の各協力団体に対して、記録を持参して挨拶時に体験会実施の提案を行う。
- 体験会終了後については、体験会実施後の効果や参加者の反応をもとにB部会で検討していく。

2 活動場所の確保について（空き家活用事例の調査報告 他）

(1) 他市事例の調査・情報収集

ア 目的の再確認

- 今回の調査は、「空き家利用の仕組みづくり」が目的であることを全体で再確認。

イ 調査状況

- 武蔵村山市「NPO法人子育てネットこどもと」を12/14（木）に生活支援コーディネーターで訪問。（詳細は別紙参照）。

ウ 今後の予定

- 三鷹市大沢地域包括支援センター「のがわの家」を1/16（火）に生活支援コーディネーターで訪問予定。
- 世田谷社協及び一般社団法人世田谷トラストまちづくりを訪問予定。区民から寄贈を受け活用している物件等があるとのこと。
- 次回以降の調査では、物件借り受けやNPO化に関するプロセス、中間支援組織の動きなど、開設の前段階についても聞き取る。

(2) 市内の取り組みについての調査・情報収集

ア 旭が丘団地 空き店舗に関する調査

- 旭が丘団地の空き店舗について、支え合いの交流拠点として整備することを検討中。予算や補助金の確保に課題があり、情報を収集中。
- 当該物件での多世代交流の可能性についても調査中であるが、保育施設としては、避難経路の確保や耐震強度に課題があることが判明し、現状での利用は難しい。

イ 空き家・空きスペース探しの方向性

- 数年のうちに、地域包括支援センターの圏域ごとに最低1か所以上の支え合いの交流拠点づくりを目標とし、空き家・空きスペース探しを行う。

- 要件として、「物件の利便性の良さ」「持主より貸出の希望あり」「可能な限り低予算での活用」の条件を満たす物件の情報を収集する。

#### ウ 確認事項

- 市における空き家活用中の固定資産税等の軽減措置がないか調査する。

### 3 活動のバックアップについて

#### (1) 「たすけあい旭」の見学

- 12/13（水） 森・鈴木で、「たすけあい旭」中桐氏への聞き取り実施。
- 支援スタッフは旭が丘団地自治会員 20 名(60～80 代)。ごみ出し 100 円、その他の生活支援（家具の運び出し等）を 1 時間 300 円で行っている。旭が丘団地自治会加入者が利用可能。電話で依頼を受け、スタッフを調整して派遣する。
- 課題として、「夏祭り運営の担い手不足」がある。地域福祉委員より清瀬三中へのボランティア募集の呼びかけも行ったが応募はなかったとの由。

#### (2) 意見交換・情報提供

- 生活支援コーディネーターとしては、担い手確保のため日本社会事業大学や十文字学園女子大学の学生を巻き込めないか検討している。
- 十文字学園女子大学について、女子サッカー部が下宿運動場を拠点に活動していることから、市の企画課や教育委員会との繋がりが密接であり、その繋がりを利用して大学と接点を持てないか確認する。

#### (3) 今後の予定

- 1/11（木） 地域通貨ピースの運営協議会に生活支援コーディネーターが参加し、意見交換を実施予定。

### 4 今後の予定（打ち合わせ日程 他）

- 毎月第 4 火曜日で定例化（難しい場合は第 3 火曜日）。出欠確認と開催場所のお知らせは、その都度生活支援コーディネーター（森）より実施。
- 次回は 1/23(火) 13:15～14:30。 場所は決まり次第連絡。
- 1/12（金） 18:30～忘年会実施。